

令和7年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月19日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲を高めるため、組織的な授業改善の充実に取り組む。単位制の利点を生かせる教育課程を実践する。 ②「DXハイスクール」「プログラミング教育」の推進校として、研究と実践を深める。	①DXハイスクールとしての組織的な授業研究を実践し、「生徒の主体的・対話的で深い学び」を充実する。 ②教科を横断してプログラミング教育を意識した授業を実践し、思考力・判断力・表現力を培う。	①1人1台端末の積極的な活用を行い、主体的に学びに向かう力を養い基礎学力の定着を図る。 ①教育課程における選択科目の配置や組み合わせを検討する。 ②プログラミング的思考や探究的な学びをキーワードにして授業改善に取り組み、学校行事や日々の学校生活に活用する。	①ロイロノートや電子黒板が有効に活用できたか。 ①選択科目の配置や組み合わせ、展開について改善が図られたか。 ②プログラミング的思考を意識した授業を何回実施できたか、また、プログラミング的思考を取り入れた学校行事等ができたか。	①生徒の授業の振り返りや年2回の授業評価から、生徒が主体的に学ぶ授業づくりに一定の成果がでている。電子黒板やロイロノートも活用できた。 ①令和8年度入学生の教育課程、選択科目の配置を検討・改善した。 ②年2回の授業互見週間を行い、2回目には公開研究授業を実施、全教科で「プログラミング教育」の研修を行った。	①授業での端末活用の一層の推進が求められる。生徒の学習意欲や興味関心を高めるため、ICTのより効果的な活用方法や先進的な取組について教員研修を充実させる。 ②これまでの実践を踏まえ、ICTの効果的な活用、プログラミング的思考を意識した授業展開を更に効果的に進める手法の開発や探究活動への活用を研究する。	・デジタルとアナログの共存が大切である。タブレット端末を生徒が活用するような学びも必要であるが、従来のように生徒が紙に書く活動も大切である。双方の利点を生かし、バランスの取れた学びをとおして、授業を充実させ、生徒を育ててほしい。	①電子黒板やロイロノートを積極的に活用しているが、更に推進が求められる。 ②新校3年を経てひととおりの教育課程を実践できた。その中で、教科の履修や単位修得における課題も明らかになってきた。	①端末等のより効果的な活用を図るため、職員間の情報共有や研究を推進する。 ②生徒一人ひとりの目標実現に向け、幅広く柔軟な学びが実現できるよう、単位制の利点を生かした教育課程を研究する。
2	生徒指導・支援	①学校行事や部活動の活性化を通して、生徒の主体性と協調性を育み、社会性の涵養を図る。 ②生徒一人ひとりに対するきめ細かな支援と規律正しい学校生活への指導の充実に図る。	①学校行事や部活動への積極的な取り組みを充実させ、生徒活動を活性化する。また、交通安全教育と人権教育の充実に図る。 ②生徒情報を共有し、生徒の理解を深めて、個々に応じた適切な生徒支援を行う。また、規範意識の向上に努める。	①相模原城山部活動推進キャンペーンを実施し、部活動への加入率の引き上げを図る。 ①交通安全教育を強化し、スクアードストリートを実施する。 ②教育相談フローチャートを活用し、SC・SSWと連携して組織的な生徒支援に取り組む。サポートドックの実施により、課題の深刻化を防ぐ。	①部活動加入率を5割以上に高めることができたか。 ①交通安全に対する意識を高め、事故を減少させられたか。 ②組織的な支援ができたか。生徒がより相談しやすい環境を整えられたか。サポートドックを効果的に活用できたか。	①部活動加入率を5割以上に高めることができなかった。 ①交通安全指導を通年おこなうことで登校時の交通事故が減少した。 ②サポートドックをおこないSC・SSWと連携し、生徒に対し細かな支援が行えた。	①相模原城山部活動推進キャンペーンの実施等、更なる方策を講じる必要がある。 ①自転車の乗車マナーや危険な運転について近隣から情報提供を多く受けている。 ②サポートドックを実施してもつかみきれない生徒がいる。	・旧津久井地区の中学校は小規模化が進み、複数校による合同部活動や拠点校での部活動を実施している。部活動の活性化のため、何か少しでもできることを探していきたい。 ・津久井警察署・まちづくりセンター・本校の三者共同での交通安全指導を強化した。	①加入率は達成できなかったが、成果をあげた部活動があった。 ①交通事故は減少したが、近隣から乗車マナーの指摘を受けることがある。 ②組織的な教育相談体制を構築できたが、支援が必要な生徒は多岐に渡るため、苦慮している。	①日々の部活動に地道に取り組む生徒を支援し、部活動の活性化に取り組む。 ①引き続き交通安全を啓発する。 ②サポートドックを通じたプッシュ型面談を更に充実し、きめ細かな支援につなげる。
3	進路指導・支援	①進路希望の実現に向けて、生徒一人ひとりが主体的に目標を設定し、計画的に実行できる指導・支援の推進を図る。 ②生徒の多様な進路実現に向けて、有益かつ早く正確な情報提供を行う。	①生徒が主体的に進路選択できるよう支援する。 ②「総合的な探究の時間」を充実させ、生涯を見据えたキャリア教育を行う。外部業者と連携を図る。	①計画的で効果的なガイダンスや三者面談を行う。また、小論文の外部テスト等を実施し、総合型選抜への対応を図る。 ②進路探究活動で系統的な進路探究を行うとともに、外部テスト等客観的な指標に基づいた指導を行う。 ②コンソーシアムサポーター配置で培ったノウ	①生徒が個々の目標に応じて、希望の進路を選択・実現できたか。また、総合型選抜による受験者数や合格者数の増加がみられたか。 ②生徒が進路探究活動を通じて、自らのキャリアを探究できたか。外部テストのデータを効果的に活用できたか。 ②生徒がインターンシップに参加できたか。	①総合型選抜合格者が昨年度の80名から102名へと27.5%の大幅な増加となり、目標を達成することができた。 ②各種進路ガイダンスを戦略的に実施したことで、生徒の意識を進路探究へと結び付けることができた。 ②インターンシップの総数は減ってしまったが、看護体験の参加が	①総合型選抜の増加が指定校推薦の基準に満たない生徒の受け皿になった結果であれば、目標を達成したとは言いがたい。今後検証の必要がある。 ②職種・学問分野への探究が浅く、志望理由を言語化する力に課題が残った。進路ガイダンスを入り口としつつ、個別の探究を深めさせ	・大学、専門学校、就職と生徒の進路は多岐に渡っている。生徒への情報提供が重要である。オープンスクールやインターンシップ等の体験も重視した方がよい。 ・県の施設でもインターンシップの受入れを行っており、他校の高校生であるが、ダムの仕事を体験した。本校生徒のインターンシップ先のひとつとして考えても	①総合型選抜での合格者が増加し、生徒が希望する進路を実現した。公正な受験機会を与えるため、指定校や公募の推薦要件を整備する必要がある。 ②進路ガイダンスや保護者向け説明会等で戦略的	①具体的な進路先や受験方法をよく理解・研究させ、外部テストの活用や受験動向の分析をもとに進路選択の幅を広げる。 ②インターンシップや看護体験への参加、地域研究などを通じて具体的な職業理

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				ハウを活かし、インターンシップへの生徒の参加を推進する。		増加した。	るかが、課題となる。 ②インターンシップへの参加を促進させる。	よいのではないかな。	に進路探究に取り組ませた。	解の機会を創出する。
4	地域等との協働	<p>①地域との交流や協働を深め、地域に信頼され開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>②外部(近隣小中学校・大学・専門学校等)との連携や協働を強化し、地域の教育力を積極的に取り入れる。</p>	<p>①本校の情報を地域に発信するとともに、地域との交流による連携を深める。</p> <p>②大学など外部機関との連携を通じて地域の教育力を活用する。</p>	<p>①「オープンスクール」やホームページによる積極的な広報を行うとともに、PTA「ふれあい花壇」整備等を通じて地域に貢献する。</p> <p>②ひまわりクラブや生徒会に加え、有志生徒や部活動部員による地域参加を推進する。</p>	<p>①情報発信や地域への貢献により、本校の教育活動が理解され、説明会への参加人数が増えたか。</p> <p>②地域の教育力を活用した活動を何回実施することができたか。</p>	<p>①近隣中学校の行事と本校のオープンスクールの日程が重なり、参加人数が少なかった。</p> <p>①学校行事や授業の様子などをWebサイトで積極的に発信した。</p> <p>②ひまわりクラブが地元の公民館等で年間5回の人形劇等の公演活動を行った。他にも生徒会のモルック大会の運営協力やダンス部のラグビー大会での演技披露など、地域と密着した取組ができた。</p>	<p>①本校が地域に愛され信頼されるよう、日頃の取組みや特色を積極的に発信する。また、地域や大学、短大等との連携を一層強化する。</p> <p>①中学生や保護者・地域に向けて広報活動を充実し、「オープンスクール」の参加者を増やすなど、本校の魅力発信に努める。</p> <p>②部活動や授業等の取組と地域との連携活動の実施を検討する。</p>	<p>・ひまわりクラブやダンス部など地域に出て活躍する部活を増やせるとよい。部活による地域連携の可能性も大きい。</p> <p>・地域の方に外部講師として来てもらえるような取組もよいのではないかな。</p> <p>・しろやま寺子屋に参加してもらって良かった。モルック大会への参加を今後お願いしたい。</p>	<p>①学校説明会やオープンスクールの開催、Webでの情報発信を行ったが、入学者選抜では募集定員に満たなかった。</p> <p>②ひまわりクラブが県教育委員会から表彰された。モルック大会や福祉のつどいに生徒がボランティア参加した。</p>	<p>①日程や実施時期を工夫する。部活動体験など、中学生が参加しやすい内容となるよう工夫する。</p> <p>②部活動や授業等、地域や地域中学校との相互理解を進める活動を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒の安全・安心な学校生活を維持するため、すべての職員が様々な変化に速やかに対応し、積極的に課題に取り組む組織を構築する。</p> <p>②風通しの良い職場環境を心掛け、事故・不祥事防止に努める。また、学校運営協議会を活用することで、組織的な課題解決力の向上を図る。</p>	<p>①業務の効率化、改革と協働に取り組み、課題の解決に向けて相談しやすい職場環境を醸成する。</p> <p>②働き方改革を推進するとともに事故・不祥事を防止する。</p>	<p>①各グループで業務改善を推進するとともに、企画会議を中心に学校全体の視点から業務の見直しを行う。また、衛生委員会を活用して職場環境の改善に努める。</p> <p>②勤務時間管理システムを活用して働き方改革を推進する。また、定期的な不祥事防止会議を行い、注意喚起し、リスクの低減を図る。</p>	<p>①業務を減らしたり、効率化を行うことができたか。衛生委員会による職場改善が実践できたか</p> <p>②働き方改革への理解が進み長時間労働が減少したか、事故・不祥事防止が徹底できたか。</p>	<p>①衛生委員会の定期的な開催やオフィス改善により職場環境の改善が進んだ。</p> <p>①企画会議を活用して常に学校運営上の課題を共有することで業務の見直しを図った。</p> <p>②業務内容の改善により時間外の勤務時間の改善が進んでいる。</p> <p>②事故不祥事防止研修会を毎職員会議時に行い、職員の意識を高めることができた。</p>	<p>①良好な職場環境を維持するとともに、さらに効率的に働ける環境を目指す。</p> <p>①グループ間の連携を進めることで、業務の効率化を図る。</p> <p>②教員間のコミュニケーションを活性化し、日常の声掛けや注意喚起をしやすい雰囲気づくりに努め、事故・不祥事の未然防止に努める。</p>	<p>・他県で部活動中にグラウンドでの落雷事故があったと聞いている。また、不審者の侵入についての対策も必要と感じる。</p> <p>・教員以外の職員ができる業務を洗い出し、教員以外の職員で分担していくことを考えるべきである。</p>	<p>①オフィス改善により、職員室が明るくなった</p> <p>①衛生委員会も機能していた。</p> <p>②書類の誤配付や誤記載など、事故につながる事案があった。複数でのチェック体制を整える必要がある。</p>	<p>①ハード面ではオフィス改善の効果を持続、ソフト面では業務の改善を進める。</p> <p>①引き続き衛生委員会を通じて職場の環境改善に努める。</p> <p>②教員間のコミュニケーションを高め、気付きを共有し、部活動の安全対策等を含め、事故防止に努める。</p>